

## 新教育システム開発プログラム「たのしい読書 みんなで読書事業」

県立図書館では、平成18年度から2か年間、文部科学省の「新教育システム開発プログラム」の一つとして委託を受け、「たのしい読書 みんなで読書」事業に取り組んでいます。本事業では、児童生徒の意欲的な読書活動の支援や学校図書館運営の活性化により、学校における読書活動の充実を図ることを目的としています。主な内容は、インターネットを活用した、読み聞かせ映像の配信や読者の感想を投稿するブログを設置した「みやざき本のページ」の開設、また、学校図書館アドバイザーの派遣や学校図書館関係者等を対象とした「学校図書館セミナー」の開催などです。



### 学校図書館セミナー

学校図書館支援として、今年1月、県立図書館と小林市中央公民館を会場に、学校図書館・公立図書館関係者等を対象とした学校図書館セミナーを実施しました。主な内容としては、図書館・メディア研究所代表の小畑信夫氏による、「学校図書館の意義とその運営方法、及び公立図書館との連携のあり方」等についての講義や、県立図書館職員による先進地視察の報告等を行いました。

学校図書館は教育課程の展開に寄与することを目的としており、そのための選書が重要です。教育課程を展開していく中で学校図書館をどのように活用するかを考えて資料の準備をすることが重要です。これらを担う学校司書と司書教諭の役割は重要です。学校司書はハウスキーパーとしての役割、司書教諭は、カリキュラムに合わせた資料を選択し、子どもや教師と図書館を結びつける役割があり、両者が、相互理解することが大切です。



講義



報告

## 平成18年度宮崎県図書館フォーラム

県内の公共図書館・学校図書館・読書グループ等図書館業務に携る人々が一堂に会し、図書館間の連携と関係者の資質の向上を図り、「地域に役立つ図書館」になることを目的に、平成19年1月27日（土）県立図書館研修ホールを会場に、本県では第1回目の宮崎県図書館フォーラムが開催されました。

今回のテーマは「読書」でした。ヒトの教育の会 井口潔会長による「なぜ読書が必要なのか」を、脳の発達のしくみから科学的に捉えた講演の後、「読書へのいざない」について参加者全員で討論しました。200名を越す参加者からは、子どもたちの読書の取り組みの様子、学校図書館の現状、読み聞かせボランティアの活動状況など活発に意見が出されました。



講演



討論

子どもの心の成長生理（脳の発達）を第0期（妊娠中）第1期（0～3歳）第2期（4～10歳）第3期（11歳～20歳）に分けて考えてみます。大脳は古い脳（大脳辺縁系）と新しい脳（大脳皮質系）に分けられ、前者は第1期から後者は第3期から機能し始めます。また、前者は感性、後者は知性の座であり、特に第1・2期までの適切な読書は人格形成に重要です。